



ザ・タイガース 2013 札幌公演

ステージ  
開演を促すように会場から手拍子が湧き起こる。照明が一層落ちると太半が立ち上がり、手拍子を打ち鳴らす。期待に変わり、いきなり明る感がそのままはじけたよくなつて1曲目「DO YOU LOVE ME」が始まった。黒

のステージながら、ステージに鮮やかに映える5人。大歓声とともに客席から照りあがる手拍子が湧き起こる。照明が一層落ちると太半が立ち上がり、手拍子を打ち鳴らす。期待に変わり、いきなり明る感がそのままはじけたよくなつて1曲目「DO YOU LOVE ME」が始まった。

歌声もサウンドも健在  
声。そして、「生きていくのに先駆け、生きていくのに生きる」という言葉が、舞台上に光を当ててくれて。ありがとう」と頭を下げる。前半は洋楽スです。この5人でザ・タイガースです」と第一のパフォーマンスが一気

は1曲ずつ、沢田以外のメンバーもリードボーカルを務めて、客席に語りかけた。「最初の5人がそろって本当にうれしい」と(森本太郎)、「10代のころに知り合った仲間が半世紀たつてまた一緒に歌えるのは幸せなこと」と(岸部一徳)など、その後「HOLIDAY」と次の曲ではドラム席と声が飛び、「ジーザイ文化ホール



北海道の舞台照明界で活躍した新村訓平さん

月14日  
舞台照明家の新村訓平さんは10  
舞台照明家、新村訓平さん  
劇作家、札幌市在住

## 舞台照明家・新村訓平さんを悼む

## 光と影の対比徹底追求

この作品は、後に詩人河井文郎が「この劇はその野性的な姿勢と明解な独創性によって、本道演劇史に残る歴史的な一页を創りあげた」(鈴木喜三著「北海道演劇」と評したとい舞台であった。幸い演技者の一人として参加していた私は、その劇作り

これらの業績に、93年札幌市民文化奨励賞、99年文化庁芸術祭大賞、2000年日本照明家協会大賞、文部省芸術奨励賞が授与された。直接賞を受けた照明家の鈴木静悟は今、「稽古をしつかり見る、そして考る。そこまで何ヶ月も掛けて苦労してくる演出や演技を肌身で感じ取れ」と言われば、その通りである。今まで何ヶ月も掛けて苦労してくる演出や演技を肌身で感じ取れ」と静かに語っている。

それが、この劇の特徴である。その結果、この劇は多くの観客に喜んで見られました。しかし、この劇は、その内容が複雑で、理解するのに時間がかかることがあります。そのため、この劇は、必ずしも観客の理解度によって評価されることが多いです。

オリジナル5人で44年ぶり再結成  
「完全タイガース」輝き今も

輝き放つ時代があった。その中で全盛期の1960年代後半、若者から熱狂的な人気を集めたのが「ザ・タイガース」。44年ぶりにオリジナルメンバーや5人で再結成し、3日の東京・日本武道館を皮切りに全国ツアーを行っている。22日には、札幌を重ねたファンを中心に満席となり、今もまた熱狂的な声援で迎え入れた。(川島博行)

## 札幌含め全国ツアーオー

瞳みのる(67)・愛称・ピート・ドランム・森本太郎(67)・岸部一徳(66)・セリーナ・ベース・加橋かつみ(65)・トッポ・ギター・ボーカル・、澤田研二(65)・ジュリー・ボーカル。5人の出会いはさまざまだが、もともと出身地の京都で結成した「セリーナ・トッポ・ギター・ボーカル」が原型。「ザ・ファニーズ」に改称し、沢田を除く4人が65歳で再結成した。会場は今回の都での幼なじみや友人だった。沢田を除く4人が65歳に京都で結成した「セリーナ・トッポ・ギター・ボーカル」が名付けられ、67年2月に「僕のマリー」でデビュー。ヒット曲を相次ぎ出した。ただ、アイドル路線的な売り出され方などで、一部のメンバーに不満も蓄積された。69年3月には加橋が脱退。岸部の弟のシ

ロードが加わった。上京後、作曲家さきやまこういちによつて「ザ・タイガース」と名付けられた。同年9月に「12年1月の沢田のライヴツアーでは、バックバンドとして森本、岸部一員に出演したが、いずれも瞳が不参加。一方、2011年9月に「12年1月の沢田のライヴツアーでは、バックバンドとして森本、岸部一員の5人全員がそろうのは、加橋が脱退した69年以来となる。



岸部一徳

沢田研二

瞳みのる

加橋かつみ

森本太郎

## 関連本やCD、DVD相次ぎ発売

ザ・タイガースの復活ライブに合わせ、関連のCDやDVD、本の発売が相次いでいる(写真=「ザ・タイガース シングルコレクション」(ユニバーサル、3360円)は2枚組で、デビューから解散までのシングル15枚の両面にカットプリントされた30曲を発表順に収録している。「ザ・タイガース フォーエヴァー DVD BOX -ライヴ&モード」(ユニバーサル、2万4980円)は5枚組で、日本武道館での「ピューティフル・コンサート」など過去のライブや秘蔵の映像が満載。当時の懐かしい歌声や姿を楽しめる。

磯前順一著「ザ・タイガース

世界はボクらを待っていた」(集英社新書、819円)は、メンバーの上京からグループ解散までの約5年間の軌跡を膨大な資料を基に活写。メンバーたちの思いや苦悩、時代とその背景などをたどることができる。

瞳みのる著「ザ・タイガース 花の首飾り物語」(小学館、1575円)は、代表曲「花の首飾り」の作詞者、菅原房子さんの消息をたどる探訪記を中心に、作曲者のすきやまこういち、補作詞のなかにしら、カバーした井上陽水らへのインタビューなどを掲載。応募時は渡島管内八雲町に住んでいた女子高生で、現在は愛知県在住の菅原さんへの電話インタビューの内容も記している。今回のザ・タイガースの復活ライブで13日に名古屋で公演した際、菅原さんが瞳さんの楽屋を訪ねてきて、直接会って話すこともできたという。